

防 災 係

第 1 災害対策・消防活動

1 災害対策

(1) 訓練

ア 福生市総合防災訓練

日 時 平成 23 年 8 月 28 日(日) 災害対策本部訓練 午前 8 時 30 分～正午
各訓練会場 午前 9 時 00 分～正午

目 的 大規模な地震が発生したとの想定のもとで、市民の迅速な避難、関係機関との連携及び自主防災組織の行動力の向上を図った。また、災害対策本部では今年度 4 月 1 日から運用を開始した J - A L E R T の試験放送を、本会場では国土交通省京浜河川事務所による降雨体験車による訓練を実施した。

場 所 災害対策本部 福生市役所 (62 人)
第 1 訓練会場 福生第三小学校 (574 人)
第 2 訓練会場 福生第一小学校 (213 人)
第 3 訓練会場 福生第二小学校 (311 人)
第 4 訓練会場 福生第四小学校 (211 人)
第 5 訓練会場 福生第五小学校 (223 人)
第 6 訓練会場 福生第六小学校 (276 人)
第 7 訓練会場 福生第七小学校 (147 人)
福生市災害ボランティアセンター 福生市福祉センター (163 人)
(ふっさボランティア・市民活動センター)

() 内は各訓練会場参加者数

参加機関 福生市 福生市消防団 福生消防署 福生警察署 陸上自衛隊 福生市交通安全推進委員会 福生消防署防災女性の会 (株)NTT東日本 - 東京西 武陽ガス(株) 福生アマチュア無線クラブ 福生 L P G 協会 災害時支援ボランティア ふっさボランティア・市民活動センター 市内自主防災組織 福生市医師会 公立福生病院 東京都柔道接骨師会 西多摩支部福生地区 福生市建設防災協力会 国土交通省京浜河川事務所

参加者数 2,180 人

イ 起震車体験訓練

目 的 人工地震の体験を通して、防災行動力の向上及び防災意識の高揚を図ることを目的とし、自主防災組織(町会)、学校、事業所等において福生消防署の協力により初期消火訓練、応急救護訓練等と併せて実施した。

運用回数 23 回 (平日 12 回 土・日曜日 11 回)

運用先 自主防災組織 6 回 学校等 10 回 事業所等 7 回

体験者数 2,470 人

(2) 災害対策事業

ア 防災啓発活動

(ア) 自主防災リーダー講習会及び救命講習会

講習日 平成 23 年 6 月 25 日(土) 午前 9 時 00 分～午後 4 時 00 分

場 所 福生市役所

受講者数 61 人

(イ) ふっさ防災展

開催日 平成 24 年 1 月 11 日(水)・12 日(木)

場 所 福生市プチギャラリー

内 容 「東日本大震災」 被災地での活動、被災地への支援、市内計画
 停電対応、立川断層について
 「福生市の防災」 福生市の防災訓練、備蓄品と備蓄食糧
 「自分の身を守る」 福生市の避難場所、各種資料配布
 「特設コーナー」 福生市家具転倒防止器具支給事業、災害時要
 援護者登録制度・救急医療情報キット紹介、
 住宅用火災警報器、消火器の点検・廃棄方法、
 子ども用防火服試着コーナー
 コーナーごとに、パネル・実物の展示及びパンフレットの配布を実施。
 入場者には、展示解説シート、乾パン1缶を配布した。

見学者数 402人

(ウ) 自主防災組織による災害体験学習

月日	自主防災組織名	学習場所	参加者数(人)
6.18	福生団地地区	山梨県立防災安全センター	40
7.3	武蔵野地区	東京臨海広域防災公園	23
9.9	富士見台地区	本所防災館	29
9.17	熊川牛浜地区	東京臨海広域防災公園	118
9.18	本町第二地区	横浜市民防災センター	30
9.25	本町第一地区	本所防災館	20
10.2	志茂第二地区	東京臨海広域防災公園	31
10.22	志茂第一地区	山梨県立防災安全センター	32
10.29	永田地区	埼玉県防災学習センター	24
10.30	本町第三地区	立川防災館	14
11.6	本町第六地区	埼玉西部防災センター	24
11.12	南地区	東京臨海広域防災公園	24
11.13	福栄地区	立川防災館	33
11.20	南田園二丁目地区	東京臨海広域防災公園	30
11.23	本町第八第一地区	本所防災館	36
11.27	牛浜第二地区	東京臨海広域防災公園	25
11.27	本町第七地区	立川防災館	33
12.10	本町第八第二地区	東京臨海広域防災公園	34
H24.1.15	武蔵野台一丁目地区	立川防災館	33
1.22	鍋ヶ谷戸第二地区	東京臨海広域防災公園	51
2.4	原ヶ谷戸地区	東京臨海広域防災公園	32
2.5	玉川台地区	池袋防災館	32
2.12	鍋ヶ谷戸第一地区	池袋防災館	23
2.18	内出地区	埼玉西部防災センター	20
2.19	加美第一・第二地区	消防博物館	29
2.20	牛浜第一地区	防衛省(新宿区市ヶ谷)	31
2.25	長沢地区	立川防災館	28
2.26	加美平住宅地区	立川防災館	30
合 計			909

(エ) 自主防災訓練の実施

自主防災組織名	参加者数(人)	自主防災組織名	参加者数(人)
福生熊川住宅地区	110	志茂第一地区	104
南地区	255	志茂第二地区	306
内出地区	177	本町第一地区	25
武蔵野地区	79	本町第二地区	20
福東地区	484	本町第三地区	140
鍋ヶ谷戸第一地区	57	本町中央地区	5
鍋ヶ谷戸第二地区	21	本町第六地区	134
玉川台地区	105	本町第七地区	388
富士見台地区	247	本町第八第一地区	48
福栄地区	52	本町第八第二地区	465
熊川牛浜地区	227	武蔵野台一丁目地区	12
福生団地地区	四地区合同水防 災訓練 133	加美平団地地区	158
南田園一丁目地区		永田地区	16
南田園二丁目地区		長沢地区	296
南田園三丁目地区		加美第一地区	二地区合同 278
牛浜第一地区	90	加美第二地区	
牛浜第二地区	150	合 計(34地区)	5,064
原ヶ谷戸地区	482		

イ 各自主防災倉庫配備品

品名	各数量	品名	各数量
毛布	15枚	投光機	1台
ポリタンク	1個	三脚(投光機用)	1台
応急救護セット	1セット	発電機	1台
骨折セット	1セット	ガソリン携行缶	1個
救急箱	1セット	ロープ(15m)	1巻
担架	4台	三角バケツ	10個
テント	1張	のこぎり	1本
ヘルメット	45個	オイルパン	2個
ハンドマイク	2台	メガホン (トランジスター型1個)	5個
移動式炊飯器	1台	のぼり旗	2本
防水シート	10枚	リヤカー (折り畳み式2台)	3台
スコップ	5本	バール	1本
コードリール	1巻	ラジオ付ライト	3個
強力ライト	3個	チェンソー	1台
ハンマー	3本	災害救助工具セット	2セット
つるはし	1本	軽可搬式消防ポンプ	1台
一輪車	1台		

内出地区、武蔵野地区、福東地区、熊川牛浜地区、牛浜第一地区、
原ヶ谷戸地区、志茂第二地区、本町第七地区、本町第八第一地区、
本町第八第二地区、永田地区、長沢地区、加美第二地区 計13地区

- ウ 応急対策資器材・物資整備計画
 応急食糧として乾パン等のランニングストックを継続実施した。
- エ 初期消火体制強化計画
 街頭設置消火器及び格納箱の新旧取替えを実施した。
- オ 家具転倒防止器具支給事業
 平成 23 年度支給件数 1,268 件
 (平成 21 年度から 23 年度までの 3 年事業：支給累計件数 2,854 件)

2 消防活動

(1) 常備消防(福生消防署)

福生市、羽村市、瑞穂町の 2 市 1 町を管轄区域として、本署と 3 出張所に総員 187 人の署員と消防ポンプ車 5 台、非常用ポンプ車 2 台、化学車 1 台、はしご車 1 台、救急車 4 台、非常用救急車 1 台、指揮隊車 1 台、査察広報車 4 台及び人員輸送車 1 台からなる陣容で予防行政の執行、消防活動等に従事している。

出場状況(管轄区域)

(単位：件)

火災	非火災	水災	救急	救助	危険排除	緊急確認	合計	前年度合計
68	30	14	7,534	336	92	86	8,160	7,720

(2) 非常備消防(福生市消防団)

市内にある 5 個分団からなる消防団組織(団員 186 人。消防ポンプ車 5 台及び指揮車 1 台を保有)により、消防活動を実施している。

ア 消防団組織

団 長 (1 人) 副団長 (4 人) 本部付団員 (6 人)	—	第一分団長 (1 人)	副分団長 (2 人)	部 長 (3 人)	班 長 (9 人)	団 員 (20 人)
	—	第二分団長 (1 人)	副分団長 (2 人)	部 長 (3 人)	班 長 (9 人)	団 員 (20 人)
	—	第三分団長 (1 人)	副分団長 (2 人)	部 長 (3 人)	班 長 (9 人)	団 員 (20 人)
	—	第四分団長 (1 人)	副分団長 (2 人)	部 長 (3 人)	班 長 (9 人)	団 員 (20 人)
	—	第五分団長 (1 人)	副分団長 (2 人)	部 長 (3 人)	班 長 (9 人)	団 員 (20 人)

イ 配置車両

分団名	車両ナンバー	車 両 の 種 類	車両購入年月
団本部	八王子 800 さ 6574	普通自動車「ワゴンタイプ」(日産)	平成 15 年 9 月
第一分団	八王子 88 す 659	普通消防ポンプ自動車(日野)	平成 10 年 11 月
第二分団	八王子 88 さ 8964	普通消防ポンプ自動車(〃)	平成 9 年 10 月
第三分団	八王子 830 さ 2303	普通消防ポンプ自動車(三菱)	平成 11 年 11 月
第四分団	八王子 830 さ 2304	普通消防ポンプ自動車(いすゞ)	平成 24 年 2 月
第五分団	八王子 830 さ 2305	普通消防ポンプ自動車(三菱)	平成 12 年 12 月

ウ 年齢別団員数 (単位：人)

年齢 団員数	18~20歳	21~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳	41~45歳	46~50歳	51歳以上
186	1	36	40	42	42	21	2	2

エ 在職年数別団員数

在職年数 団員数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
186	59	38	40	34	12	1	2

オ 退団・入団員数 (単位：人)

区分	平成23年4月1日現在	退団者	入団者	階級異動	平成24年4月1日現在
本部	5	3		3	5
本部付団員	6				6
第一分団	35	3	4	1	35
第二分団	35	8	9	1	35
第三分団	35	5	5		35
第四分団	35	7	7		35
第五分団	35	2	3	1	35
合計	186	28	28		186

カ 消防団員火災出動状況

火災発生件数(件)	出動回数(件)	延べ出動団員数(人)	平均出動団員数(人)
25	14	1,436	102.6

キ 消防団出動状況(風水害等)

延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
134	1

ク 消防団警戒等特別出動状況

警戒名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
祭礼警戒	110	2
七夕警戒	456	4
歳末警戒	324	5
その他の警戒	129	5
合計	1,019	16
前年度合計	1,168	18

ケ 消防団各種訓練（消防）

訓練名	延べ出動団員数（人）	出動回数（回）
火災防御訓練	427	6
ポンプ操法訓練	5,057	80
機関訓練	1,701	59
規律・礼式訓練	235	6
教育訓練	343	13
住民指導	255	12
合計	8,018	176
前年度合計	7,275	125

コ 消防団各種訓練（災害）

訓練名	延べ出動団員数（人）	出動回数（回）
教育訓練	24	1
住民指導	140	1
合計	164	2
前年度合計	227	5

サ ポンプ操法審査会（第 59 回）

審査会は、消防ポンプ操法の基本を身に付け、指揮者と団員との連携を訓練し、もって団員の士気向上を図り、火災防御活動の迅速かつ確実な実施及び火災による生命・財産の損害の防止を目的とし、ホースカーによるホース延長操法及び手びろめによる延長操法を隔年で実施している。

平成 23 年度	手びろめによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第五分団	第一分団	第三分団
チーム成績	第二分団 B	第三分団 B	第五分団 A

前 年 度	ホースカーによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第三分団	第五分団	第四分団
チーム成績	第五分団 B	第三分団 A	第三分団 B

(3) 火災の状況

ア 月別火災発生件数

区分 月	建物			車両 (件)	その他 (件)	合計 (件)	焼失面積 (m ²)	非火災 (件)	消防団 出動回数 (回)
	全焼 (件)	半焼 (件)	ぼや (件)						
4		1			2	3	30 (10)		1
5				1	1	2	0		
6		1			1	2	0 (3)	1	3
7			1	1	1	3	0	1	2
8			1		1	2	0		
9			1		1	2	0		1
10			1			1	0	2	2
11			1		1	2	0		
12					1	1	0	2	1
24年1			1			1	0	3	1
2		3	1			4	10 (10)		2
3					2	2	0	1	1
合計	0	5	7	2	11	25	40 (23)	10	14
前年度 合計	1	4	12	1	10	28	131 (26)	11	17

半焼は、部分焼を含む。

焼失面積は焼失床面積、()内は天井、壁等の焼失表面積

イ 原因別火災件数

(単位：件)

原因		放火 (疑い含む。)	たばこ	ストーブ	ガスコンロ等	火遊び	その他	合計
件数	平成23年度	18	1	0	0	0	6	25
	前年度	14	5	0	1	2	6	28

(4) 消防水利施設

ア 水利

(単位：基、箇所)

消火栓		合計	防火水槽			貯水槽		合計	プール
150mm未満	150mm以上		20m ³ 未満	20m ³ 以上 40m ³ 未満	40m ³ 以上 60m ³ 未満	60m ³ 以上 100m ³ 未満	100m ³ 以上		
464	157	621	36 (0)	5 (0)	98 (88)	18 (18)	22 (22)	179 (128)	17

()は、耐震性防火水槽・貯水槽で内数

イ 消火栓新設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	大字熊川 1411 番地先	100 × 75	地下式単口
合計	1 箇所		

ウ 消火栓移設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	新口径	旧口径	備考
1	大字熊川 809 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口 地下式単口
2	大字熊川 845 番地先	75 × 75	75 × 75	地下式単口 地下式単口
3	大字熊川 855 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口 地下式単口

4	大字熊川 859 番地先	250 × 75	250 × 75	地下式単口	地下式単口
5	大字福生 1121 番地先	250 × 75	250 × 75	地下式単口	地下式単口
6	加美平一丁目 6 番地先	150 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
7	加美平一丁目 11 番地先	150 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
8	加美平一丁目 13 番地先	150 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
9	加美平一丁目 15 番地先	300 × 75	300 × 75	地下式双口	地下式双口
10	加美平三丁目 14 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
11	加美平三丁目 17 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
12	加美平三丁目 18 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
13	加美平三丁目 24 番地先	100 × 75	100 × 75	地下式単口	地下式単口
14	加美平三丁目 28 番地先	250 × 75	250 × 75	地下式単口	地下式単口
合計	14 箇所				

工 消火栓補修箇所

(単位 : mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	大字福生 636 番地先	100 × 75	地下式単口
合計	1 箇所		

第2 東日本大震災に伴う対応（一部平成22年度を含む。）

1 発災の概要

平成23年3月11日

午後2時46分 地震発生 震源地：三陸沖 マグニチュード9.0、最大震度7（宮城県栗原市）

福生市内震度4

午後2時49分 大津波・津波警報発表

午後3時18分 大船渡で8.0メートル以上の津波（最大波）を観測

午後3時42分 東京電力は、原子力災害対策特別措置法に基づき、福島第一原子力発電所の1・2・3号機の事故に関し、国、関係県及び市町村へ通報

2 震災直後の福生市の対応

平成23年3月11日

（1） 福生市内の被害状況の確認（発災直後）

ア 市職員によるパトロール出動（パトロールカー4台）

イ 消防団指揮車及び消防団（5個分団）によるパトロール出動

ウ 市内各公共施設へ状況報告を指示

上記3件とも異常なし。ただし、JRの踏切閉鎖により市内各所で渋滞発生との報告あり。

緊急対策会議を開催し、各部の情報共有を行う。引き続き市内の被害状況の把握に努めることを確認

（2） 帰宅困難者への対応

ア JR青梅線、五日市線及び八高線が不通のため、拝島駅、牛浜駅及び福生駅において帰宅困難者発生。東京都からの帰宅困難者受入要請を受け、緊急対策会議において避難場所を市民会館大ホール及びロビーとすることを決定。3月11日午後7時30分から受入開始

イ 防災行政無線、携帯電話情報提供サービス（メール配信）及びホームページへの掲載並びに福生駅、牛浜駅及び拝島駅前の文字表示盤での広報並びに職員による呼びかけ及び誘導並びに避難場所への案内図配布の依頼及び案内図の表示により避難所開設の周知を行った。

ウ 毛布と乾パンの配布

エ 拝島駅から市民会館までボランティアによる帰宅支援

オ 市民等による食事・新聞等の差し入れ

カ 総避難者数126人（ピークは3月12日午前4時の92人）、職員対応者数20人、3月12日午前7時

30分まで避難所を運営

震災当日、青梅市立第一中学校の生徒（420人）が合唱祭のため、市民会館を利用。JR青梅線不通のため、福生第一中学校体育館にて一時避難（乾パン480個提供）

3 市民等への周知等

- (1) 広報ふっさ臨時号等（4月1日臨時号・4月15日特集号）の発行及び市ホームページにより、大震災に伴う市の対応及び各種関係先問合せ一覧等を市民へ周知
- (2) 災害コールセンターの設置について（平成23年3月16日から）
 - ア 問合せ件数 平成23年3月16日から4月5日まで1,178件（各部職員応援による）。4月6日からは防災係職員対応（休日及び夜間は当直職員にて対応）
平成23年3月13日から同月15日まで761件（総務部職員対応）
 - イ 主な問合せ内容 計画停電、防災行政無線関係

4 計画停電及び節電に伴う対応

- (1) 市の施設の対応
 - ア 市役所の開庁時間延長については、平成23年3月16日から同月31日まで休止した。4月1日からは土曜日の開庁、4月20日からは水曜日の開庁時間延長（午後8時まで）を、部署を限定して実施
 - イ 各公共施設の利用時間については、基本的に3月19日から同月31日までは午後5時まで、4月1日からは開館を午後8時までとし、4月20日からは、計画停電実施時以外は、通常どおり開館
なお、節電協力のため、屋外体育施設（市営競技場、福生野球場、テニスコート等）及び小・中学校校庭照明の使用は不可とし、10月1日から通常どおりの使用を再開
- (2) 道路照明灯・公園灯の消灯
 - ア 道路は、やなぎ通り、加美立体通り、田園通り及び元下水道通り（武蔵野台）の交差点などを除いた一部を消灯
 - イ 公園は、福生公園、日光橋公園、原ヶ谷戸どんぐり公園、福生駅西口公園、牛浜駅東口公園、東福生駅東口公園等14公園を除いて消灯
ア、イ共に11月中旬から照明の点灯を再開
- (3) 主要な交差点での見守り活動
計画停電時に福生市交通安全推進委員会及び市職員による小・中学生の登下校時の見守り活動を

市内の主要な交差点 6 箇所にて実施（平成 23 年 3 月 15 日、17 日、18 日、22 日の 4 日間。ただし、15 日は計画停電は実施されず。）

地域の方々による自主的な見守り活動の御協力あり

5 被災者に対する支援状況

(1) 義援金総額 121,389,009 円（平成 24 年 3 月 31 日現在）

内訳 東京都市長会分 8,212,562 円（うち駅前で実施した職員による募金活動分 719,983 円）

日本赤十字社分 113,176,447 円

(2) 支援物資の受付（福祉センターにて物品を限定して受付）

品 名	内 容
乳幼児用おむつ	128 袋
大人用おむつ	277 袋
使い捨てカイロ	1,844 個
飲料水（ペットボトル）	120 本（0.5L）、1 本（1L）、12 本（1.5L）、36 本（2L）

支援物資は、第 1 次として平成 23 年 3 月 25 日に東京都、第 2 次は 4 月 5 日に茨城県に搬送

(3) 市備蓄品の提供

ア 平成 23 年 3 月 28 日に宮城県へ向け、東京都の救援物資集積場所である自衛隊練馬駐屯地へ民間トラック借上げにより搬送

ブルーシート 360 枚	簡易トイレ 60 セット	乾パン約 2,000 食
アルファ米 2,000 食	乾燥おかゆ 2,000 食	3 日間食料セット約 3,000 食

イ 4 月 27 日に東京都市長会を通じて、宮城県石巻市の復旧に必要な土のう袋 500 枚を提供

(4) 避難者の一時受入れの実施

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難者を平成 23 年 3 月 19 日から 4 月 19 日まで、福祉センターにて受入れ（合計 13 人）

避難者のうち 3 人（1 世帯）は市営住宅、6 人（2 世帯）は市内賃貸住宅へ、4 人は福島県へ既に帰郷

(5) 避難者への住まいの提供

居住可能な空き家、集合住宅の一室などを無償で 1 年間程度提供いただける方の募集。5 月 15 日号広報等で周知し、居住希望者に紹介。提供の申出のあった住居 12 件（3 世帯が入居）

(6) 市営住宅の提供

提供戸数延べ4戸で入居期間当面6か月間（家賃・敷金免除）

6か月間経過後も入居の更新を可能とし、平成24年3月31日現在3戸入居中

（7） 自転車の提供（4月19日）

NPO法人（災害建造物復旧・復興支援会議）を通じ、日本青年会議所の協力を得て、福生市自転車等の放置防止等に関する条例（平成6年条例第26号）の規定に基づき、所有権を得た放置自転車を宮城県栗原市へ37台提供

（8） 七夕「トモダチ」作戦（6月29日から8月7日まで）

福生七夕まつりの起源となる、宮城県仙台市への復興支援をコンセプトに、短冊と義援金を贈る企画を実施。また、福生市公立小中学校PTA連合会による折り鶴と、プロ野球28会チャリティーエイドにより集められたメッセージフラッグを、10月17日（月）仙台市役所にて、加藤育男福生市長とプロ野球28会中畑清会長が、奥山恵美子仙台市長に直接贈呈した（以下、贈呈内容）。

ア 義援金 総額1,216,720円

イ 短冊1,439枚

ウ 福生市公立小中学校PTA連合会による折り鶴1万羽

エ プロ野球28会チャリティーエイド メッセージフラッグ4枚

（9） 選挙物品の提供

東京都選挙管理委員会が、岩手県陸前高田市選挙管理委員会から選挙物品の支援要請を受け、必要物品のうち福生市からは投票用紙計数機2台を提供

8月22日に東京都が集積を行い、8月31日に陸前高田市選挙管理委員会へ搬送

（10） 被災地への職員派遣

期間	派遣先	人数	支援業務内容
5月2日～7日	大槌町（岩手県）	1名	住民票・り災証明発行
5月10日～15日	釜石市（岩手県）	1名	避難所の運営管理業務
5月30日～6月4日	釜石市（岩手県）	1名	避難所の運営管理業務
6月16日～23日	浪江町臨時役場 （福島県二本松）	1名	生活支援金支給業務
6月23日～7月1日	釜石市（岩手県）	2名	避難所の運営管理業務
6月26日～7月3日	いわき市（福島県）	1名	り災証明発行用の現地調査業務等
7月18日～25日	仙台市（宮城県）	1名	り災証明発行用の現地調査業務等
7月31日～8月7日	いわき市（福島県）	1名	り災証明発行用の現地調査業務等
5月9日～平成24年3月末	大河原町立大河原小学校 （宮城県）	1名 （教諭）	小学校教諭

(11) 災害派遣従事車両証明書の発行

被災地自治体が要請する震災の応急復興に必要とされる業務や、現地ボランティアセンターにおいて受入調整ができていないボランティア従事者に対して、被災県と高速道路管理会社等との間で調整が取れている有料道路を無料で通行するための証明書を 523 枚発行

6 市内への避難者の状況

(1) 避難者総数 96 人 43 世帯 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

全避難者分の転入出情報を全国避難者情報システムへ登録

全国避難者情報システム 各地に避難している方の情報を全国的に取りまとめ、避難元となる県・市町村に情報提供し、見舞金等の各種給付のお知らせや国民健康保険証などの再発行、税や保険料の減免・猶予・納期限延長などの重要なお知らせを周知し、届出ができるようにするための都道府県・市町村の事務の連携の総称

(2) 避難者に対するサービス等について

「ふっさ げんきサポートカード」 発行枚数 66 枚

避難者への情報提供の一元化、手続の簡素化などの利便性を図るため、避難者支援カード「ふっさ げんきサポートカード」を全国避難者情報システムに登録した方を対象に 6 月 1 日から交付し、提供する各種相談、市内公共施設の使用料・手数料の減免等のサービスを一覧表にまとめ周知

「ふっさげんきサポートカード」の掲示で受けられるサービスの実施状況

部署名		サービス(制度・支援)	【23年度】 利用件数
総合窓口課	総合窓口係	各種証明書発行手数料免除	8 件
環境課	ごみ対策係	ゴミ袋及び粗大ゴミ手数料減免	23 件
社会福祉課	庶務・福祉計画担当	住宅情報の提供	3 件
健康課	保健指導係	健康に関する相談支援	1 件
子育て支援課	子ども家庭支援センター係	子ども家庭支援センターの利用 (ふれあいひろばの利用)	2 件
まちづくり計画課	住宅グループ	市営住宅の入居相談	11 件
図書館	中央図書館	図書館の利用(利用カードの作成)	1 件
合計			49 件

その他、事前予約、手続、確認等が必要なサービスの実施状況

部署名		サービス(制度・支援)	【23年度】 利用件数
保険年金課	保険年金係	保険税徴収猶予・減免	6 件
		国民健康保険一部負担金免除	14 件
		保険料免除等相談・申請	8 件
	後期高齢医療係	後期高齢者医療制度(相談・申請)	1 件
		保険料免除	1 件
		一部負担金免除	1 件

障害福祉課	障害福祉係	心身障害者自動車ガソリン費用助成事業	1 件
		心身障害者タクシー利用者給付事業	2 件
		特殊疾病患者福祉手当	1 件
		心身障害者福祉手当	1 件
		難病医療費等助成制度	1 件
		心身障害者医療費助成制度	1 件
介護福祉課	介護保険係	保険料の免除	3 件
		利用者負担額の減額・免除	2 件
健康課	保健指導係	母子保健事業 (手帳の交付、健康診断の受診)	8 件
	健康管理係	予防接種事業(定期接種)	4 件
子ども育成課	子ども育成係	ふっさ子育てまるとくカードの発行	2 件
	保育係	保育園の入園・保育料減免	19 件
指導室	学務・指導係	転校手続の実施	27 件
		就学援助	16 件
		教科書の提供	9 件
公民館	公民館	市民会館での市主催事業の入場券無料	1 件
課税課	市民税係 資産税係	福生市税納期の延長(軽自動車税)	20 件
		福生市税納期の延長(住民税)	9 件
		福生市税納期の延長(固定資産税)	34 件
安全安心 まちづくり課	地域安全係	自転車の提供	12 件
秘書広報課	広報広聴係	被災者向け法律相談	1 件
合計			205 件

7 災害救助法の適用及び災害救助法に基づく被災県への求償

(1) 帰宅困難者対応に係る一時繰替支弁金 330,303 円

平成 23 年 3 月 11 日において東京都内でも被害が発生し、多数の帰宅困難者が発生しその対応を実施したことにより災害救助法が適用されたため、同法 44 条の規定に基づき国及び都から市が一時繰替支弁をした費用について支払がされた。

(2) 災害救助法に基づく被災県への求償総額 27,060,027 円

災害救助法の適用された被災県へ、同法 35 条の規定に基づく支援を行った際の経費について東京都をとおして求償を行った。

求償に基づく歳入：東日本大震災災害救助費負担金 27,390,330 円

8 市内放射線量測定

東京都福祉保健局より貸与された放射線量測定器により、平成 23 年 6 月 29 日より福生市役所丘の広場にて定点測定を開始した。

市内公園・公共施設・小中学校、幼稚園・保育園のほか、局所的に高い測定値が出やすい場所も測定し、測定結果を広報ふっさ及び市ホームページで公開した。